2008 年度 修士論文要旨

エージェントとの文字対話における同調傾向に関する研究

関西学院大学大学院理工学研究科
情報科学専攻 北村研究室 徳田 圭祐

人間同士が対話を行うとき，対話の内容そのものであるバーバル情報だけでなく，声の大きさや高さ，発話時間などのノンバーバル情報もやりとりされ，話者への印象や対話の流れに影響を与えている．コミュニケーションを行う二者間には，自らの表出するノンバーバル情報を相手の表出するノンバーバル情報に合わせていく現象が観察されており，これを同調傾向と呼ぶ．先行研究によって同調傾向は円滑なコミュニケーションの指標とされている．音声対話においては同調傾向は人間同士だけでなく，エージェントと人間との間にも確認されている．

エージェントと人間がインタラクションを行う上で文字対話は一般的に利用されている．本研究ではその中でも話速可変文字対話に注目している．話速可変文字対話は対話相手の文字を一文字ずつ表示させる．そのためノンバーバル情報として発話速度と交代潜時が表現可能である．本研究では話速可変文字対話における同調傾向を調べた．その結果，音声対話とは異なり，発話速度・交代潜時が一定の時には同調傾向は生じなかった．だが，発話速度が途中で変化する場合に，同調傾向がみられた．また，交代潜時が途中で遅くなった場合に人間は交代潜時を短くした．これは人間から同調するのではなく逆にエージェントを同調させようとする反応であり，エージェントに対する苛立ちの表れであると考えられる．

同調傾向は元々人間同士のコミュニケーションにみられるものであった事を考えると，人間はエージェントの発話速度が変化することに対し「人間らしさ」を感じ，同調傾向が生じた可能性が示唆される．